



SIOS

SIOS Report
Vol.24

2018年12月期上半期
2018年1月1日 ▶ 2018年6月30日

株主・投資家の皆様へ

皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
また、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、2018年12月期上半期(2018年1月1日~2018年6月30日)の「SIOS Report Vol.24」を皆様にお届けし、当上半期の業績のご報告とともに、今後の見通し等につきましてご説明申し上げます。



代表取締役社長 喜多 伸夫

連結業績ハイライト

売上高

2018年12月期 上半期

6,270百万円

2017年12月期 上半期

6,226百万円

営業利益

2018年12月期 上半期

127百万円

2017年12月期 上半期

173百万円

親会社株主に帰属する 四半期純利益

2018年12月期 上半期

79百万円

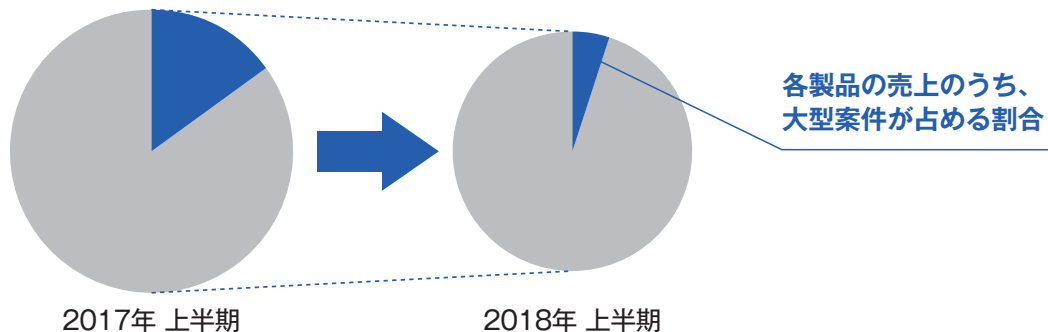
2017年12月期 上半期

89百万円

2018年12月期上半期業績と下半期の重点施策について

2018年12月期上半期の業績は、売上高については前年同期比で微増収でしたが、利益面では減益となりました。減益となった理由としては、当社の主力製品である「LifeKeeper」、MFP向けソフトウェア製品の減収による影響が大きくなっております。

両製品の減収については、大型案件の割合が減少したことが要因となっております。



このような状況を踏まえ、2018年12月期下半期以降は、以下の重点施策に取り組んでまいります。

2018年12月期下半期の重点施策

■ LifeKeeper、MFP 向けソフトウェア製品で の営業強化

- 販売パートナーとの連携を強化
- 大型案件への営業リソース注力
- 新製品の販売強化



■ 金融機関向け経営支援 システムの伸長推進



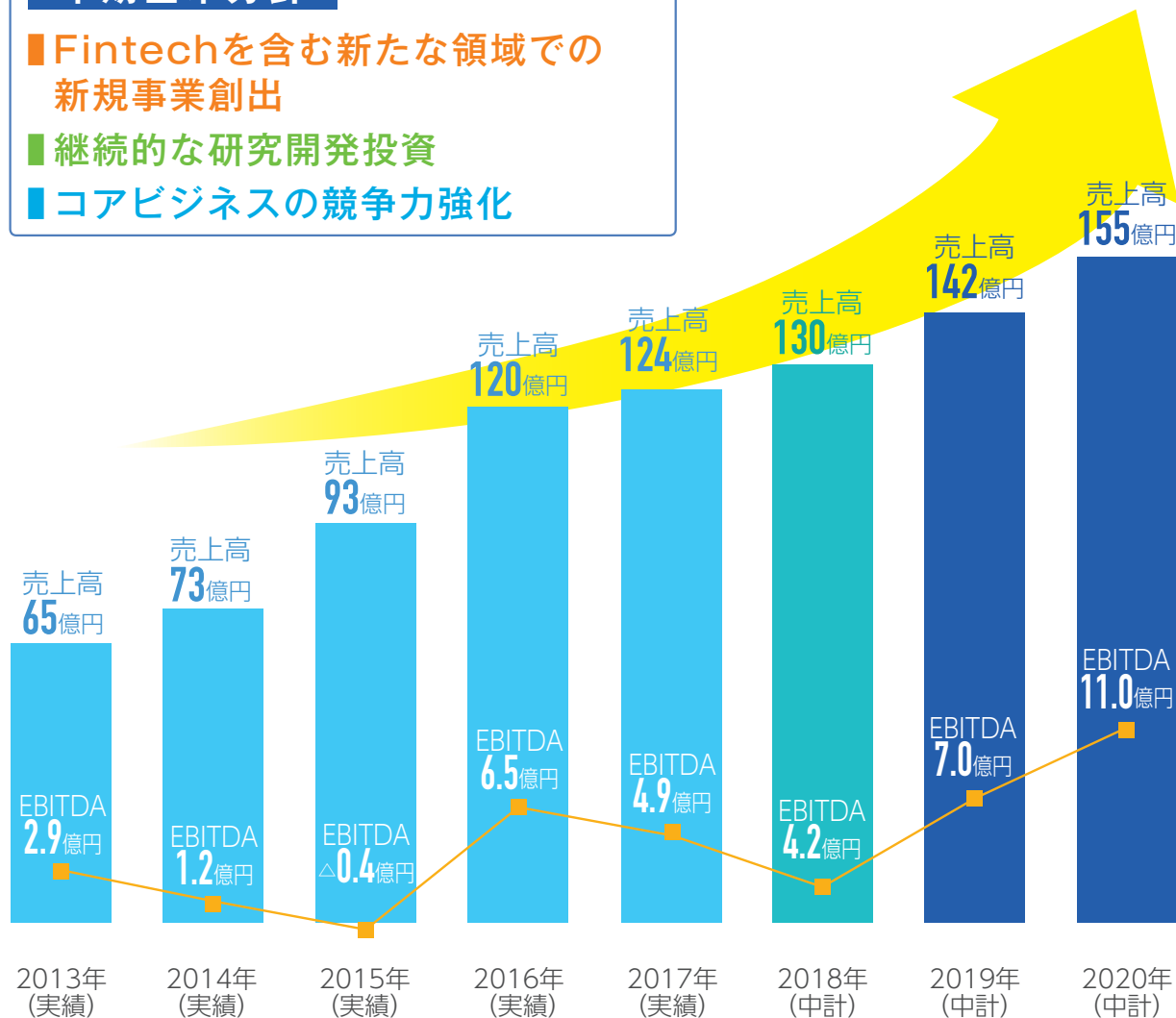
■ クラウド、AI領域への 研究開発投資継続



成長への基盤を固める3年間と位置付け、 2020年には売上高155億円、EBITDA11億円を目指す

中期基本方針

- Fintechを含む新たな領域での新規事業創出
- 継続的な研究開発投資
- コアビジネスの競争力強化



2018年12月期上半期の取り組み

中期基本方針

Fintechを含む新たな領域での
新規事業創出

継続的な研究開発投資

コアビジネスの競争力強化

株式会社Rhelixa（レリクサ）と資本業務提携 共同でエピゲノムのクラウド解析プラットフォームの開発を開始

当社は、2018年3月にエピゲノムの情報解析およびソフトウェア・装置開発を行う株式会社Rhelixa（レリクサ）が発行する第三者割当増資による株式を取得するとともに、事業会社であるサイオステクノロジー株式会社がエピゲノムのクラウド解析プラットフォームの開発と構築をレリクサと共同で開始いたしました。

株式会社Rhelixaについて

2015年2月設立、東京大学の研究室を母体とするエピゲノム専門解析企業。大学や研究機関、製薬会社、遺伝子研究を行っている企業等から委託を受けて、ゲノム・エピゲノムに関する実験・解析を専門的に行う。



エピゲノム解析の知見を獲得し、
バイオサイエンス領域における
事業展開・拡大を狙う。

エピゲノム解析のプラットフォーム
開発に必要なクラウド技術を手に入れ、
ビジネスを加速させる。

エピゲノム解析で「より良い社会」の実現へ

エピゲノムとは？

食事や生活習慣、ストレスなどの後天的な環境要因によって、「人体の設計図」とも言えるゲノムに記載された遺伝子の働き（発現）が変化してしまう現象。

エピゲノム解析は
様々な分野での活用が可能



➡ヘルスケア分野

➡農林水産業

➡再生医療の実用化

中期基本方針

Fintechを含む新たな領域での
新規事業創出

継続的な研究開発投資

コアビジネスの競争力強化

サウスカロライナ大学にR&Dセンターを開設 先進AIを共同で研究開発

当社の米国事業会社である、米国サイオステクノロジー社（以下、STC）は、2018年6月にサウスカロライナ州コロンビアに本部を置く、サウスカロライナ大学の工学・コンピュータ学部にてR&Dセンターを開設いたしました。このR&Dセンターは、STCの研究開発拠点として機能するとともに、学生や教職員との共同作業を通じてAI、機械学習の先進的な共同研究を戦略的に進めることを目的に、大学内に設置することになりました。



共同研究の目的

米国サイオステクノロジー

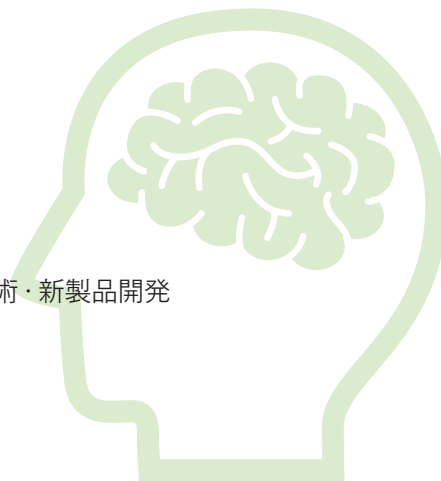
AIの研究開発を強化

- サウスカロライナ大学の優秀な生徒と共にAI関連の新技术・新製品開発
- 同大学の研究プロジェクトへの参加
- 優秀な人材の採用（インターンシップ・プログラムなど）

サウスカロライナ大学

AIの専門家を育成

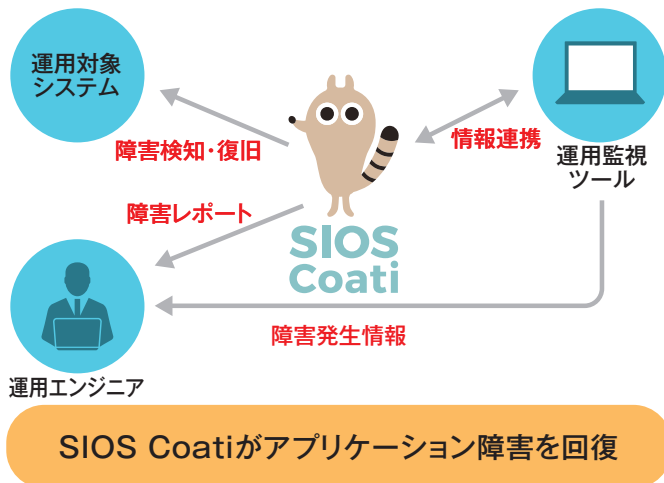
- 米国サイオステクノロジーの技術者から最新AI技術を学び、実社会で起きる問題に取り組む機会を獲得
- 最先端AIを研究するためのソフトウェアの利用が可能



クラウドにおける監視自動復旧サービスSIOS Coatiの 新バージョンをリリース

SIOS Coatiとは？

「SIOS Coati」は、簡単な初期構築だけで、インスタンスの監視、復旧を行います。「運用にコストをかけられない」「運用コストを削減したい」というニーズを持つ企業に数多くご使用いただいております。



新バージョンのポイント

お客様のご要望にお応えして、大幅にリニューアルしました。



運用に即したきめ細かな
設定機能を追加

以下の項目について、個別にモード選択が可能

- 監視対象のインスタンス／サービス範囲、内容
- 障害検知後のインスタンス／サービス復旧動作の内容
- 障害対応レポート送信タイミング



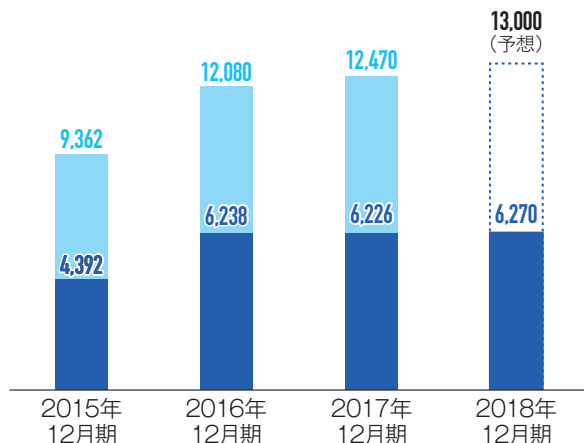
ローコストでスピーディーに
導入可能

- 監視のための初期構築が不要
- フリーミアムモデルを採用
(利用期間やインスタンス数が無制限の無償版を提供)

2018年12月期上半期 業績の推移

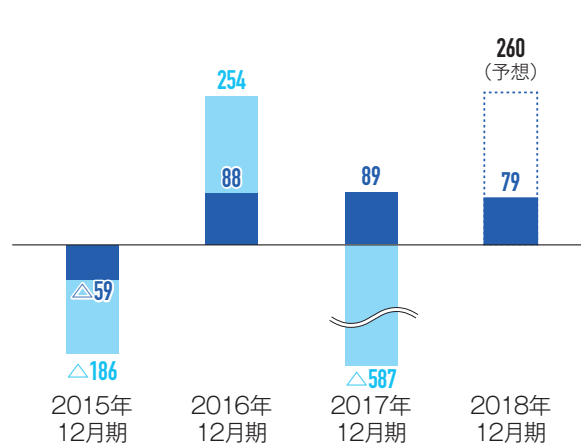
売上高(百万円)

■ 上半期 ■ 通期



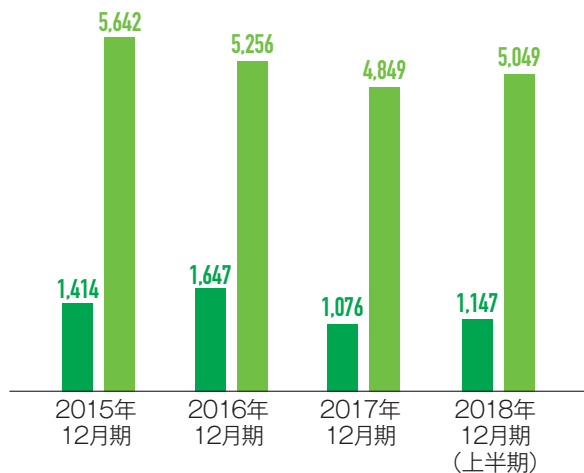
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)

■ 上半期 ■ 通期



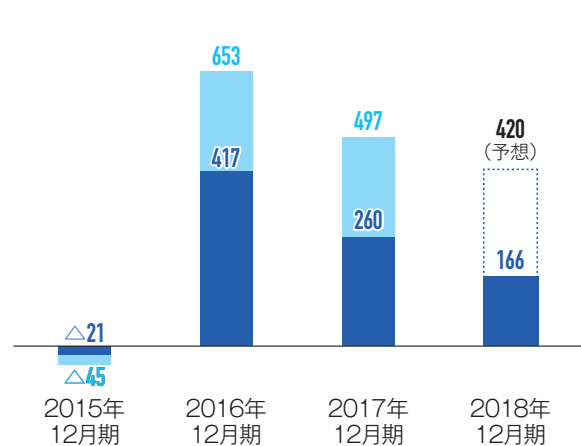
純資産/総資産(百万円)

■ 純資産 ■ 総資産



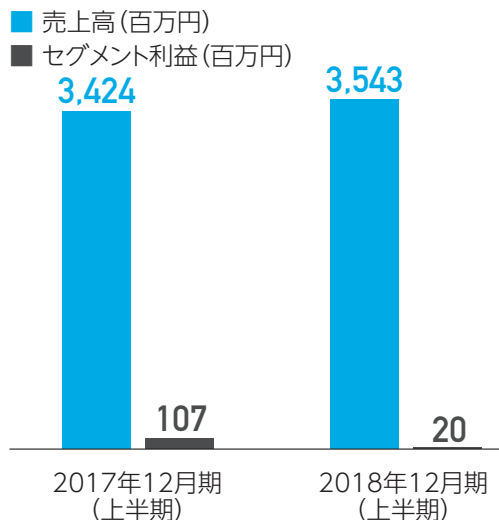
EBITDA(百万円)

■ 上半期 ■ 通期



セグメント別の業績

オープンシステム基盤事業



売上高

3,543百万円 (前年同期比 3.5%増 ▲)

国内

- 主力製品の「LifeKeeper」は**減収**
- Red Hat, Inc.関連商品の販売は**順調な増収**
- OSSサポートサービスやOSS関連商品は**堅調な増収**

海外

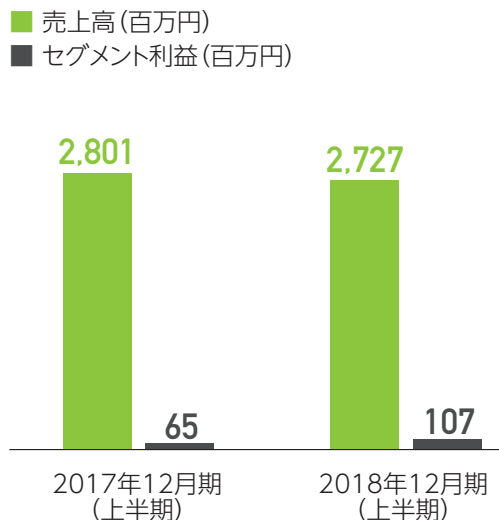
- 欧州を除く全地域で**減収**

セグメント利益

20百万円 (前年同期比 81.2%減 ▼)

- 「LifeKeeper」の減収、商品販売の粗利率低下により**減益**

アプリケーション事業



売上高

2,727百万円 (前年同期比 2.7%減 ▼)

- MFP向けソフトウェア製品は**減収**
- 金融機関向けのシステム開発・構築支援は**減収**
- 地方銀行等を主要顧客とする金融機関向け経営支援システムの販売は**大幅な増収**

セグメント利益

107百万円 (前年同期比 63.1%増 ▲)

- 新規事業関連費用が増加したが、のれん及び顧客関連資産の償却費が50百万円減少したことにより**増益**

グルージェントがクラウドセキュリティの国際規格「ISO/IEC 27017:2015」認証を取得

株式会社グルージェントは、IDの管理をクラウドで行うサービス「Gluegent Gate」およびクラウドワークフローサービス「Gluegent Flow」において、国際標準規格「ISO/IEC 27017:2015 (JIS Q 27017:2016)」に基づくISMSクラウドセキュリティ認証(以下、ISO27017認証)を取得いたしました。IDaaS、クラウド型ワークフローのプロバイダーとしてISO27017認証の取得は、国内初となります。

認証取得内容

登録事業者	株式会社グルージェント
認証規格	ISO/IEC 27017:2015
認証登録番号	CLOUD 687132
認証取得日	2018年6月13日
審査機関	BSIグループジャパン株式会社
対象サービス	Gluegent GateおよびGluegent Flow

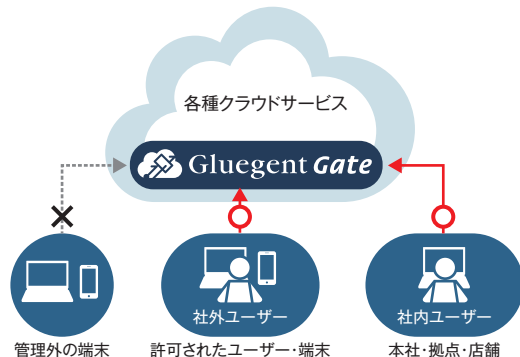
ISO27017認証について

クラウドサービスの提供および利用に適用できる情報セキュリティ管理策のための指針を示した国際標準規格

ISO27017認証を取得した製品の紹介

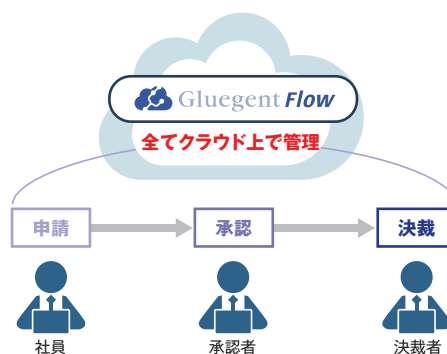
Gluegent Gate

GoogleのG Suite™やMicrosoft Office 365™などのクラウドサービスを含む幅広いシングルサインオンを実現し、**利便性と同時に安全性も担保できるセキュリティ対策ツール。**



Gluegent Flow

G Suite™やMicrosoft Office 365™と強力に連携し、申請・承認・決裁といった一連のワークフローをクラウド化。**シンプルな操作性で誰でも簡単に使える本格ワークフローシステム。**



※会社名および製品名は、各社の商標もしくは登録商標です。

会社概要 / 株式状況

会社概要 (2018年6月30日現在)

会社名	サイオス株式会社 (英語表記: SIOS Corporation)
設立	1997年5月23日
資本金	1,481百万円
役員	代表取締役社長 喜多伸夫 取締役 大塚厚志 取締役 森田昇 社外取締役 福田敬 取締役(監査等委員) 平松祐樹 社外取締役(監査等委員) 古畑克巳 社外取締役(監査等委員) 長谷川紘之

主な子会社 サイオステクノロジー株式会社
(東京都港区)

SIOS Technology Corp.
(California, USA)

株式会社グルージェント
(東京都港区)

株式会社キーポート・ソリューションズ
(東京都港区)

Profit Cube株式会社
(東京都品川区)

株式の状況 (2018年6月30日現在)

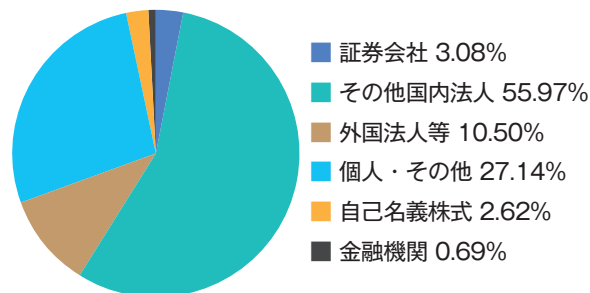
発行可能株式総数	15,000,000株
発行済株式総数	8,874,400株*
株主数	3,837名

*自己株式232,868株を含む

大株主の状況 (2018年6月30日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
(株)大塚商会	1,593,300	18.44
パーソルテンプスタッフ(株)	1,500,000	17.36
喜多エンタープライズ(株)	920,000	10.65
日商エレクトロニクス(株)	746,300	8.64
喜多伸夫	208,900	2.42

所有者別株式分布状況 (2018年6月30日現在)



サイオスホームページでは当社の最新ニュースや事業紹介に加え、ミッションステートメント、IR 情報が一目でわかる IR ニュースや財務ハイライトなど、個人投資家の皆様に当社を深くご理解いただけるよう、様々なコンテンツをよりわかりやすく見やすく掲載しています。



トップページ



IR ページ

株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	毎年12月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国支店で行っております。 ■住所変更等のお申出先について 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。 なお、証券会社等に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
公告の方法	電子公告とします。ただし、事故その他のやむを得ない事由によって公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
上場取引所	東証二部
コード番号	3744



サイオス株式会社

〒106-0047 東京都港区南麻布2-12-3 サイオスビル
TEL:03-6401-5111 (代表) FAX:03-6401-5112

